

4課

新約聖書の預言者

10月24日

安息日午後

10月17日

暗証聖句

賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。(I コリント 12:4~6、新共同訳)

霊の賜物は種々あるが、御霊は同じである。務は種々あるが、主は同じである。働きは種々あるが、すべてのものの中に働いてすべてのことをなさる神は、同じである。(I コリント 12:4~6、口語訳)

今週の聖句

マタイ 16:13~16、エフェソ (エペソ) 2:20、黙示録 22:6、ルカ 2:36~38、
使徒言行録 (使徒行伝) 21:9、エフェソ (エペソ) 6:10~18

今週のテーマ

父親が車を運転していると、息子は通り過ぎる車を眺めながら、父親の車と同じものを探していました。すると父親が1台の車を指差して、「ほら、あれは父さんが最初に乗っていた車と同じだよ!」と叫びました。家に帰ると、父親は最初の車の取扱説明書と今の車の取扱説明書を取り出し、それぞれの車の特徴を息子に注意深く説明し、共通点と変更点を強調しました。ところが、父親が二つのエンジンを比べてみると、すべてが同じでした。多くの部分が変わっていたのに、エンジンは変わっていませんでした。

神は、旧新両約聖書の中で預言者を通して語られましたが、彼らのメッセージに一貫性と調和があるのは、聖霊——神の靈感の源、つまりその「エンジン」——が変わっていないからです。聖霊は常に、預言の賜物を通して真の預言者を力づけてくださいます。また、ヘブライ (ヘブル) 人への手紙が明らかにしているように (ヘブ 1:1~3)、聖霊は預言者のメッセージの中心にキリストを据えられます。

今週は新約聖書における預言の賜物について考察します。預言者がどんなことをしたのか、誰が預言者として機能していたのか、預言者と使徒はどのように異なるのか、そして偽預言者の危険性についても見ていきます。

ヘブ 1:1～3 (新共同訳)

1:1 神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、

1:2 この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。

1:3 御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。

ヘブ 1:1～3 (口語訳)

1:1 神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、

1:2 この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。

1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

日曜日 10月18日 預言者としてのイエス

モーセはこう預言しました。「あなたの神、主はあなたの中から、あなたの同胞の中から、わたしのような預言者を立てられる。あなたたちは彼に聞き従わねばならない」〔口語訳「あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞のうちから、わたしのようなひとりの預言者をあなたのために起されるであろう。あなたがたは彼に聞き従わなければならない」〕(申 18:15)。その預言者とは誰だったのでしょうか。聖書自体がそれを明らかにしています。それはイエスご自身を指していたのです。「モーセは言いました。『あなたがたの神である主は、あなたがたの同胞の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。彼が語りかけることには、何でも聞き従え』」〔口語訳「モーセは言った、『主なる神は、わたしをお立てになったように、あなたがたの兄弟の中から、ひとりの預言者をお立てになるであろう。その預言者があなたがたに語ることは、ことごとく聞きしたがいないさい』」〕(使徒 3:22、ヨハ 6:14 も参照)。

問1 イエスの預言者としての役割は何でしたか。イエスの在世当時に、この問いはどう答えられたでしょうか(マタ 16:13～16、マコ 8:27～29、ルカ 9:18～20)。

キリスト、すなわち救い主なるイエス〔Jesus, as the Christ, the Messiah〕は、旧約聖書のすべての預言者が指し示したお方です。新約聖書において、イエスは彼らのメシア預言の成就として認識されています。ルカ 24:13～35 でイエスは、メシア預言が指し示していた者としてご自身を明らかにしておられます。

実際、ヨハネ 1:1～5 における「言(ことば)」の描写は、いかなる人間にも、単なる人間の預言者にも、当てはまりません。「言」は、創造主だとされています。「万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった」〔口語訳「すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった」〕(ヨハ 1:3) からです。つまり、「言」なるお方は、あらゆる被造物、つまり 930 億光年の広がりを持つと現在推定される全宇宙を創造されたのです。

創世記1章の「神は言われた」〔口語訳「神は……言われた」〕という一つひとつの箇所において、私たちはイエスの声を聞くことができます。「光あれ」(創1:3)と言われたお方は、「人間を照らす光」〔口語訳「人の光」〕(ヨハ1:4)でもあり、救済計画(同1:4, 5)を通して、地上の闇を払いのけておられました。

神の預言の言葉は確実で、保証されています。心に留めているなら、それは、「夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火」〔口語訳「夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしび」〕(Ⅱペト〔ペテ〕1:19)なのです。預言は、「明けの明星」〔口語訳「明星」〕であり、預言の光の源であられるイエスが永遠の御国の到来をお告げになるまで、私たちの罪深い世界に光をもたらし続けます。

その時まで、キリストは、ご自分の生涯と死と復活を通して、私たち全員に永遠の命を与えてくださいます。唯一の問題は、私たちがそれを受け入れるかどうかです。

【参考】英語テキストにある文

Dwell on the fact that Jesus, the Creator (John 1:1-3), is also the One who died on the cross for your sins. What does this amazing truth teach about the reality of God's love for us?

イエスは創造主(ヨハ1:1~3)であり、あなたの罪のために十字架上で死なれた方でもあるという事実を、しっかりと心に留めてください。この驚くべき真理は、私たちに對する神の愛の現実(神の愛がいかに本物であるか)について、何を教えてくれているでしょうか。

26

申 18:15 (新共同訳)

18:15 あなたの神、主はあなたの中から、あなたの同胞の中から、わたしのような預言者を立てられる。あなたたちは彼に聞き従わねばならない。

使徒 3:22 (新共同訳)

3:22 モーセは言いました。『あなたがたの神である主は、あなたがたの同胞の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。彼が語りかけることには、何でも聞き従え。』

ヨハ 6:14 (新共同訳)

6:14 そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言った。

マタ 16:13~16 (新共同訳)

16:13 イエスは、フィリポ・カイサリア地方に行ったとき、弟子たちに、「人々は、

申 18:15 (口語訳)

18:15 あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞のうちから、わたしのようひとりの預言者をあなたのために起されるであろう。あなたがたは彼に聞き従わなければならない。

使徒 3:22 (口語訳)

3:22 モーセは言った、『主なる神は、わたしをお立てになったように、あなたがたの兄弟の中から、ひとりの預言者をお立てになるであろう。その預言者があなたがたに語ることに、ことごとく聞きしたがいないさい。』

ヨハ 6:14 (口語訳)

6:14 人々はイエスのなさったこのしるしを見て、「ほんとうに、この人こそ世にきたるべき預言者である」と言った。

マタ 16:13~16 (口語訳)

16:13 イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言

人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。

16:14 弟子たちは言った。『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。ほかに、『エレミヤだ』とか、『預言者の一人だ』と言う人もいます。』

16:15 イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。』

16:16 シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

マコ 8:27～29 (新共同訳)

8:27 イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の方々の村にお出かけになった。その途中、弟子たちに、「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。

8:28 弟子たちは言った。『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。』

8:29 そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」

ルカ 9:18～20 (新共同訳)

9:18 イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。そこでイエスは、「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。

9:19 弟子たちは答えた。『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『だれか昔の預言者が生き返ったのだ』と言う人もいます。』

9:20 イエスが言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「神からのメシアです。」

ルカ 24:13～35 (新共同訳)

24:13 ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、

24:14 この一切の出来事について話し合っていた。

24:15 話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。

言われた、「人々は人の子をだれと言っているか」。

16:14 彼らは言った、「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります」。

16:15 そこでイエスは彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。

16:16 シモン・ペトロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。

マコ 8:27～29 (口語訳)

8:27 さて、イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々へ出かけられたが、その途中で、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は、わたしをだれと言っているか」。

8:28 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。また、エリヤだと言い、また、預言者のひとりだと言っている者もあります」。

8:29 そこでイエスは彼らに尋ねられた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペトロが答えて言った、「あなたこそキリストです」。

ルカ 9:18～20 (口語訳)

9:18 イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちが近くにいたので、彼らに尋ねて言われた、「群衆はわたしをだれと言っているか」。

9:19 彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っています。しかしほかの人たちは、エリヤだと言い、また昔の預言者のひとりが復活したのだと、言っている者もあります」。

9:20 彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。ペトロが答えて言った、「神のキリストです」。

ルカ 24:13～35 (口語訳)

24:13 この日、ふたりの弟子が、エルサレムから七マイルばかり離れたエマオという村へ行きながら、

24:14 このいっさいの出来事について互に語り合っていた。

24:15 語り合い論じ合っていると、イエスご自身が近づいてきて、彼らと一緒に歩いて行かれた。

24:16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。

24:17 イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。

24:18 その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在しているながら、この数日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」

24:19 イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。」

24:20 それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。

24:21 わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。

24:22 ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、

24:23 遺体を見つげずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。

24:24 仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」

24:25 そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、

24:26 メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」

24:27 そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

24:28 一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。

24:16 しかし、彼らの目がさえぎられて、イエスを認めることができなかった。

24:17 イエスは彼らに言われた、「歩きながら互に語り合っているその話は、なんのこなのか」。彼らは悲しそうな顔をして立ちどまった

24:18 そのひとりのクレオパという者が、答えて言った、「あなたはエルサレムに泊まっているながら、あなただけが、この都でこのごろ起ったことをご存じないのですか」。

24:19 「それは、どんなことか」と言われると、彼らは言った、「ナザレのイエスのことです。あのかたは、神とすべての民衆との前で、わざにも言葉にも力ある預言者でしたが、

24:20 祭司長たちや役人たちが、死刑に処するために引き渡し、十字架につけたのです。

24:21 わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました。しかもその上に、この事が起ってから、きょうが三日目なのです。

24:22 ところが、わたしたちの仲間である数人の女が、わたしたちを驚かせました。というのは、彼らが朝早く墓に行きますと、

24:23 イエスのからだが見当たらないので、帰ってきましたが、そのとき御使が現れて、『イエスは生きておられる』と告げたと申すのです。

24:24 それで、わたしたちの仲間が数人、墓に行ってみますと、果して女たちが言ったとおりで、イエスは見当たりませんでした」。

24:25 そこでイエスが言われた、「ああ、愚かで心のにぶいたため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。

24:26 キリストは必ず、これらの苦難を受けて、その栄光に入るはずではなかったのか」。

24:27 こう言って、モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた。

24:28 それから、彼らは行こうとしていた村に近づいたが、イエスがなお先へ進み行かれる様子であった。

24:29 二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。

24:30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。

24:31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。

24:32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

24:33 そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、

24:34 本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。

24:35 二人も、道で起こったことや、パンを裂いて下さったときにイエスだと分かった次第を話した。

ヨハ 1:1～5 (新共同訳)

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は、初めに神と共にあった。

1:3 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。

1:4 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。

1:5 光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。

創 1:3～5 (新共同訳)

1:3 神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。

1:4 神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、

1:5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

Ⅱペト 1:19 (新共同訳)

1:19 こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝く

24:29 そこで、しいて引き止めて言った、「わたしたちと一緒に泊まり下さい。もう夕暮になっており、日もはや傾いています」。イエスは、彼らと共に泊まるために、家にはいられた。

24:30 一緒に食卓につかれたとき、パンを取り、祝福してさき、彼らに渡しておられるうちに、

24:31 彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。すると、み姿が見えなくなった。

24:32 彼らは互に言った、「道々お話しになったとき、また聖書を説き明して下さい、お互の心が内に燃えたではないか」。

24:33 そして、すぐに立ってエルサレムに帰って見ると、十一弟子とその仲間が集まっていて、

24:34 「主は、ほんとうによみがえって、シモンに現れなさった」と言っていた。

24:35 そこでふたりの者は、途中でであったことや、パンをおさきになる様子でイエスだとわかったことなどを話した。

ヨハ 1:1～5 (口語訳)

1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は初めに神と共にあった。

1:3 すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

1:4 この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。

1:5 光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

創 1:3～5 (口語訳)

1:3 神は「光あれ」と言われた。すると光があった。

1:4 神はその光を見て、良しとされた。神はその光とやみとを分けられた。

1:5 神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕となり、また朝となった。第一日である。

Ⅱペテ 1:19 (口語訳)

1:19 こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預

ともし火として、どうかこの預言の言葉
に留意してください。

言の言葉を暗やみに輝くともしびとし
て、それに目をとめているがよい。

月曜日 10月19日 使徒と預言者

新約聖書は、預言者と使徒の働きに言及しています。使徒とは、ギリシア語の「アポストロス」という言葉で定義されるように、「使者」、つまり神から「遣わされた者」でした。福音書全体を通して、「使徒」という言葉は十二弟子を指しています。新約聖書のほかの書もこの考えを支持しており、キリストの最初の弟子ではなかった人々も使徒に含めています。

パウロは彼の書簡の中で、自分自身を使徒と12回呼んでいます。ローマの信徒への手紙(ローマ人への手紙) 1:1, 2でパウロは、使徒としての彼の召しと彼の説教の内容を旧約聖書の預言者のメッセージと結びつけるとともに、同11:13において、自分自身を異邦人のための使徒として紹介しています。彼は、「神の御心によって」【口語訳「神の御旨により」】(1コリ 1:1)任命されたというのです。

父から子へと家系によって受け継がれた祭司とは異なり、神は御心に従って預言者や使徒を任命されました。パウロの使徒職が争われたとき、彼は自分の召しを擁護しました(1コリ 9:1, 2)。パウロは自らの使徒職を、教会の土台であるキリストの業の上に建てられているものと見なしていました(エフェ(エペ) 2:20)。それゆえ、神の啓示を受ける者として、使徒は預言者と同等のレベルの靈感を持っています(同 3:1~5)。

Ⅱペトロ(ペテロ) 3:1, 2においてペトロは、かつて現れ、その言葉が重要であった預言者たちに言及していますが、今や使徒たちも預言者と同じ權威を持つ者として示されています。これらの聖句では、旧約聖書と新約聖書の時代について言及されています。預言者は旧約時代における神の使者、使徒は新約時代における神の使者であるかのように思われるかもしれませんが、使徒ではないのに預言をしたり、預言の賜物を用いたりした人もいました。新約時代、預言の賜物は使徒だけに限られていたわけではありません。また、すべての預言者が使徒だったわけでもありません(使徒 15:32)。

問2 エフェソ(エペ) 2:20 と 3:5 によれば、使徒と預言者は、キリストや教会との関係において、いかに機能するのでしょうか。

また、新約聖書の使徒たちが記したものを読めばわかるように、彼らの記したもののほとんどすべては、イエスを中心としていました。何らかの形で、イエスの生涯、死、復活、大祭司としての務め、再臨が、彼らの中心的な焦点だったのです。

【参考】英語テキストにある英文

The Bible is the only official record we have of the words of the apostles and prophets about Jesus, His life, and works. What should this tell us about why the Bible must have final authority for what we believe about Jesus and His death for us?

聖書は、イエスとその生涯や御業について、使徒や預言者が語った言葉を記した唯一の公式記録です。このことから、イエスや、私たちのためにイエスが死なれたことについて私たちが信じることにに関して、なぜ聖書が最終的な権威を持たなければならないのか、どのようなことが示されているのでしょうか。

27

ロマ 1:1、2 (新共同訳)

1:1 キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、——

1:2 この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、

ロマ 11:13 (新共同訳)

11:13 では、あなたがた異邦人に言います。わたしは異邦人のための使徒であるので、自分の務めを光栄に思います。

I コリ 1:1 (新共同訳)

1:1 神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、

I コリ 9:1、2 (新共同訳)

9:1 わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たではないか。あなたがたは、主のためにわたしが働いて得た成果ではないか。
9:2 他の人たちにとってわたしは使徒でないにしても、少なくともあなたがたにとっては使徒なのです。あなたがたは主に結ばれており、わたしが使徒であることの生きた証拠だからです。

エフェ 2:20 (新共同訳)

2:20 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、

エフェ 3:1～5 (新共同訳)

3:1 こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているわたしパウロは……。

3:2 あなたがたのために神がわたしに恵みをお与えになった次第について、あなたがたは聞いたにちがいません。

3:3 初めに手短かに書いたように、秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました。

3:4 あなたがたは、それを読めば、キリストによって実現されるこの計画を、わた

ロマ 1:1、2 (口語訳)

1:1 キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び別たれ、召されて使徒となったパウロから——

1:2 この福音は、神が、預言者たちにより、聖書の中で、あらかじめ約束されたものであって、

ロマ 11:13 (口語訳)

11:13 そこでわたしは、あなたがた異邦人に言う。わたし自身は異邦人の使徒なのであるから、わたしの務を光栄とし、

I コリ 1:1 (口語訳)

1:1 神の御旨により召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟ソステネから、

I コリ 9:1、2 (口語訳)

9:1 わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たではないか。あなたがたは、主にあるわたしの働きの実ではないか。

9:2 わたしは、ほかの人に対しては使徒でないにしても、あなたがたには使徒である。あなたがたが主にあることは、わたしの使徒職の印なのである。

エペ 2:20 (口語訳)

2:20 またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。

エペ 3:1～5 (口語訳)

3:1 こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているこのパウロ——

3:2 わたしがあなたがたのために神から賜わった恵みの務について、あなたがたはたしかに聞いたであろう。

3:3 すなわち、すでに簡単に書きおくれたように、わたしは啓示によって奥義を知らされたのである。

3:4 あなたがたはそれを読めば、キリストの奥義をわたしがどう理解しているか

しがどのように理解しているかが分かると思います。

3:5 この計画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や“霊”によって、キリストの聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。

Ⅱペト 3:1、2 (新共同訳)

3:1 愛する人たち、わたしはあなたがたに二度目の手紙を書いています、それは、これらの手紙によってあなたがたの記憶を呼び起こして、純真な心を奮い立たせたいからです。

3:2 聖なる預言者たちがかつて語った言葉と、あなたがたの使徒たちが伝えた、主であり救い主である方の掟を思い出してもらうためです。

使徒 15:32 (新共同訳)

15:32 ユダとシラスは預言する者でもあったので、いろいろと話をし、兄弟たちを励まし、力づけた。

がわかる。

3:5 この奥義は、いまは、御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに啓示されているが、前の時代には、人の子らに対して、そのように知らされてはいなかったのである。

Ⅱペテ 3:1、2 (口語訳)

3:1 愛する者たちよ。わたしは今この第二の手紙をあなたがたに書きおくり、これらの手紙によって記憶を呼び起こし、あなたがたの純真な心を奮い立たせようとした。

3:2 それは、聖なる預言者たちがあらかじめ語った言葉と、あなたがたの使徒たちが伝えた主なる救主の戒めとを、思い出させるためである。

使徒 15:32 (口語訳)

15:32 ユダとシラスとは共に預言者であったので、多くの言葉をもって兄弟たちを励まし、また力づけた。

火曜日 10月20日 新約聖書の預言者の働き

問3 Iコリント 14:3、エフェソ (エペソ) 4:11～13、黙示録 22:6 は、新約聖書の預言者の役割について、どんなことを教えてくださいか。

上記の聖句は、確かに有益ですが、新約聖書の預言者が行っていたあらゆることを包括的に示しているわけではありません。とはいえ、彼らの行いの多くは、旧約聖書の預言者が行っていたことを反映しており、そこには預言の賜物の継続性が見られます。

Iコリント12:10では、預言がほかの霊的な賜物と共に言及されており、キリストの体の比喩(Iコリ12:27、28)では、預言者が使徒のあとに言及されています。使徒もまた、神から啓示を受けていました。Iコリント14:3によれば、「預言する者は、人に向かって語っている、人を造り上げ、励まし、慰めます」[口語訳「預言をする者は、人に語ってその徳を高め、彼を励まし、慰めるのである」]

エフェソ(エペソ)4:11～13にも、Iコリント12章と同様、類似した一連の霊的な賜物が列挙されています。預言者は、使徒、福音宣教者、牧者、教師と共に挙げられています(エフェ[エペ]4:11)。これらの人々が存在するのは、「聖なる者たち(が)奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、ついには、わたしたち(が)皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長する」[口語訳「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信

仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至る」(同 4:12、13)ためなのです。ここでもほかの箇所でも見られるように、彼らのメッセージの中心はイエスでした。

使徒言行録(使徒行伝)は、ユダとシラスという2人の預言者(いずれも聖書に書巻を残していません)について述べています。彼らは、「いろいろと話をして兄弟たちを励まし力づけ」[口語訳「多くの言葉をもって兄弟たちを励まし、また力づけ」](使徒 15: 32)しました。確かに、預言者は時として警告を、しかも厳しい警告を発しなければなりません、状況によっては、特に困難な時期には、励ましの言葉も与えます。その言葉とそこに込められた希望と約束は、聞く必要のあった人々によって、間違いなく大いに感謝されたことでしょう。

励ましの働きは、預言することとも関連して言及されています(1コリ 14:31)。患難や迫害の時代に、預言の賜物は励ましと希望の源でした。

黙示録 22:6 では、イエスは「預言者たちの靈感の神」[口語訳「預言者たちのたましいの神」]であり、「(その)言葉は、信頼でき、また真実である」[口語訳「これらの言葉は信ずべきであり、まことである」]とされています。言うまでもなく、神の僕たちが神に代わって語るとき、彼らから出るものもすべて「信頼でき、また真実」[口語訳「信ずべきであり、まこと」]です。ほとんど何も信頼できないこの世において、主の預言者たちの言葉、特に私たちの最終的かつ究極の権威である聖書の中で彼らが語っている言葉は、確かに信頼することができます。

28

I コリ 14:3 (新共同訳)

14:3 しかし、預言する者は、人に向かって語っているので、人を造り上げ、励まし、慰めます。

エフェ 4:11～13 (新共同訳)

4:11 そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教師、ある人を牧者、教師とされたのです。

4:12 こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、

4:13 ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

黙 22:6 (新共同訳)

22:6 そして、天使はわたしにこう言った。「これらの言葉は、信頼でき、また真実である。預言者たちの靈感の神、主が、その天使を送って、すぐにも起こるはずのことを、御自分の僕たちに示されたのである。

I コリ 14:3 (口語訳)

14:3 しかし預言をする者は、人に語ってその徳を高め、彼を励まし、慰めるのである。

エペ 4:11～13 (口語訳)

4:11 そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。

4:12 それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、

4:13 わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

黙 22:6 (口語訳)

22:6 彼はまた、わたしに言った、「これらの言葉は信ずべきであり、まことである。預言者たちのたましいの神なる主は、すぐにも起るべきことをその僕たちに示そうとして、御使をつかわされたのである。

I コリ 12:10 (新共同訳)

12:10 ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。

I コリ 12:27、28 (新共同訳)

12:27 あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。

12:28 神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、次に奇跡を行う者、その次に病気をいやす賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。

使徒 15:32 (新共同訳)

15:32 ユダとシラスは預言する者でもあったので、いろいろと話をして兄弟たちを励まし力づけ、

I コリ 14:31 (新共同訳)

14:31 皆が共に学び、皆が共に励まされるように、一人一人が皆、預言できるようにしなさい。

I コリ 12:10 (口語訳)

12:10 またほかの人には力あるわざ、またほかの人には預言、またほかの人には霊を見わける力、またほかの人には種々の異言、またほかの人には異言を解く力が、与えられている。

I コリ 12:27、28 (口語訳)

12:27 あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。

12:28 そして、神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、第三に教師とし、次に力あるわざを行う者、次にいやしの賜物を持つ者、また補助者、管理者、種々の異言を語る者をおかれた。

使徒 15:32 (口語訳)

15:32 ユダとシラスとは共に預言者であったので、多くの言葉をもって兄弟たちを励まし、また力づけた。

I コリ 14:31 (口語訳)

14:31 あなたがたは、みんなが学びみんなが勧めを受けるために、ひとりずつ残らず預言をすることができるのだから。

水曜日 10月21日 女預言者と若い牧会者たち

問4 ルカ 2:36～38 と使徒言行録(使徒行伝) 21:9 を読んでください。これらの箇所は、女預言者について、どんなことを教えてくださいか。

旧約聖書の時代、神は男女を問わず、ご自分の使者となるように召されました。新約聖書の時代には、女預言者がいたという明確な証拠があります。アンナは、新約聖書の中で初めて「女預言者」と呼ばれている人です。彼女は、献身的な奉仕者として、「断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、……神を賛美し、……幼子のことを話した」〔口語訳「夜も昼も断食と祈りをもって神に仕えていた。……神に感謝をささげ、そしてこの幼な子のことを、……語りきかせた」〕(ルカ 2:37, 38) 人物です。

使徒言行録(使徒行伝) 21:9は、フィリポ(ポリポ)には「預言をする四人の未婚の娘がいた」〔口語訳「いずれも処女であって、預言をしていた」〕と述べています。エウセビオスなどの初期教会の歴史家は、彼女たちが住んでいたと思われる場所や、のちに葬られたと思われる場所に言及している後代の文書を発見しています。いずれにせよ、私たちがここで目にするのは、預言の賜物を持つ女性たち、しかもおそらく若い女性たちです。彼女たちがどんなことを預言したのか、またその働きの広がりやどの程度のものであったのかは、正確にはわかりません。しかし、預言の賜物を持つこれらの若い女性たちについて確かなことが一つあります。彼女たちの預言

の言葉は、どれも正典、つまり聖書には収録されていないということです。つまり、ほかの多くの預言者と同様、彼女たちは非正典預言者、つまり真の預言者ではあるけれど、その言葉や著作物が聖書に収録されていない者たちであったということです。

女預言者に加えて、若い牧師たちが使徒と密接に協力して働きました。使徒たちは、牧会の働きのために若い指導者を育てたのです。例えば、パウロはテモテを「信仰によるまことの子」〔口語訳「信仰によるわたしの真実な子」〕(1テモ1:2、同4:12も参照)と呼んでいます。パウロはテモテに牧会の働きの基本を教えました。彼はテモテの召しについて、こう述べています——「わたしの子テモテ、あなたについて以前預言されたことに従って、この命令を与えます。その預言に力づけられ、雄々しく戦いなさい」〔口語訳「わたしの子テモテよ。以前あなたに対してなされた数々の預言の言葉に従って、この命令を与える。あなたは、これらの言葉に励まされて、信仰と正しい良心とを保ちながら、りっぱに戦いぬきなさい」〕(同1:18)。

テトス1:4でパウロは、テトスのことを「信仰を共にするまことの子」〔口語訳「信仰を同じうするわたしの真実の子」〕と紹介しています。パウロはテトスに、困難な状況にあったクレタ(クレテ)の信徒たちの指導者を任命する務めを与えました。パウロは若いテトスに、この重要な責任にどう取り組むべきかについて霊的な助言を与え、こう締めくくっています。「十分な権威をもってこれらのことを語り、勧め、戒めなさい。だれにも侮られてはなりません」〔口語訳「あなたは、権威をもってこれらのことを語り、勧め、また責めなさい。だれにも軽んじられてはならない」〕(テト2:15)。

老若男女である私たちは皆、神の働きにおいて果たすべき役割があります。あなたの役割は何ですか。そして、どのようにすればさらに多くのことができるでしょうか。

29

ルカ 2:36～38 (新共同訳)

2:36 また、アシエル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとっていて、若いとき嫁いであら七年間夫と共に暮らしたが、

2:37 夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、2:38 そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々に幼子のことを話した。

使徒 21:9 (新共同訳)

21:9 この人には預言をする四人の未婚の娘がいた。

1テモ 1:2 (新共同訳)

1:2 信仰によるまことの子テモテへ。父である神とわたしたちの主キリスト・イ

ルカ 2:36～38 (口語訳)

2:36 また、アセル族のパヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。彼女は非常に年をとっていた。むすめ時代にとついで、七年間だけ夫と共に住み、

2:37 その後やもめぐらしをし、八十四歳になっていた。そして宮を離れずに夜も昼も断食と祈とをもって神に仕えていた。

2:38 この老女も、ちょうどそのとき近寄ってきて、神に感謝をささげ、そしてこの幼な子のことを、エルサレムの救を待ち望んでいるすべての人々に語りしかせた。

使徒 21:9 (口語訳)

21:9 この人に四人の娘があつたが、いずれも処女であつて、預言をしていた。

1テモ 1:2 (口語訳)

1:2 信仰によるわたしの真実な子テモテへ。父なる神とわたしたちの主キリスト・

イエスからの恵み、憐れみ、そして平和があるように。

I テモ 4:12 (新共同訳)

4:12 あなたは、年が若いということで、だれからも軽んじられてはなりません。むしろ、言葉、行動、愛、信仰、純潔の点で、信じる人々の模範となりなさい。

I テモ 1:18 (新共同訳)

1:18 わたしの子テモテ、あなたについて以前預言されたことに従って、この命令を与えます。その預言に力づけられ、雄々しく戦いなさい、

テト 1:4～2:15 (新共同訳)

1:4 信仰を共にするまことの子テトスへ。父である神とわたしたちの救い主キリスト・イエスからの恵みと平和とがあるように。

1:5 あなたをクレタに残してきたのは、わたしが指示しておいたように、残っている仕事を整理し、町ごとに長老たちを立ててもらうためです。

1:6 長老は、非難される点がなく、一人の妻の夫であり、その子供たちも信者であって、放蕩を責められたり、不従順であったりしてはなりません。

1:7 監督は神から任命された管理者であるので、非難される点があってはならないのです。わがままでなく、すぐに怒らず、酒におぼれず、乱暴でなく、恥ずべき利益をむさぼらず、

1:8 かえって、客を親切にもてなし、善を愛し、分別があり、正しく、清く、自分を制し、

1:9 教えに適う信頼すべき言葉をしっかり守る人でなければなりません。そうでないと、健全な教えに従って勧めたり、反対者の主張を論破したりすることもできませんでしょう。

1:10 実は、不従順な者、無益な話をする者、人を惑わす者が多いのです。特に割礼を受けている人たちの中に、そういう者がいます。

1:11 その者たちを沈黙させねばなりません。彼らは恥ずべき利益を得るために、教えてはならないことを教え、数々の家

イエスから、恵みとあわれみと平安とが、あなたにあるように。

I テモ 4:12 (口語訳)

4:12 あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。

I テモ 1:18 (口語訳)

1:18 わたしの子テモテよ。以前あなたに対してなされた数々の預言の言葉に従って、この命令を与える。あなたは、これらの言葉に励まされて、信仰と正しい良心とを保ちながら、りっぱに戦いぬきなさい。

テト 1:4～2:15 (口語訳)

1:4 信仰を同じうするわたしの真実の子テトスへ。父なる神とわたしたちの救主キリスト・イエスから、恵みと平安とが、あなたにあるように。

1:5 あなたをクレタにおいてきたのは、わたしがあなたに命じておいたように、そこにし残してあることを整理してもらい、また、町々に長老を立ててもらうためにほかならない。

1:6 長老は、責められる点がなく、ひとりの妻の夫であって、その子たちも不品行のうわさをたてられず、親不孝をしない信者でなくてはならない。

1:7 監督たる者は、神に仕える者として、責められる点がなく、わがままでなく、軽々しく怒らず、酒を好まず、乱暴でなく、利をむさぼらず、

1:8 かえって、旅人をもてなし、善を愛し、慎み深く、正しく、信仰深く、自制する者であり、

1:9 教にかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならない。それは、彼が健全な教によって人をさとし、また、反対者の誤りを指摘することができるためである。

1:10 実は、法に服さない者、空論に走る者、人の心を惑わす者が多くおり、とくに、割礼のある者の中に多い。

1:11 彼らの口を封ずべきである。彼らは恥ずべき利のために、教えてはならないことを教えて、数々の家庭を破壊してし

庭を覆っています。

1:12 彼らのうちの一人、預言者自身が次のように言いました。「クレタ人はいつもうそつき、悪い獣、怠惰な大食漢だ。」

1:13 この言葉は当たっています。だから、彼らを厳しく戒めて、信仰を健全に保たせ、

1:14 ユダヤ人の作り話や、真理に背を向けている者の掟に心を奪われないようにさせなさい。

1:15 清い人には、すべてが清いのです。だが、汚れている者、信じない者には、何一つ清いものはなく、その知性も良心も汚れています。

1:16 こういう者たちは、神を知っていると公言しながら、行いではそれを否定しているのです。嫌悪すべき人間で、反抗的で、一切の善い業については失格者です。

2:1 しかし、あなたは、健全な教えに適うことを語りなさい。

2:2 年老いた男には、節制し、品位を保ち、分別があり、信仰と愛と忍耐の点で健全であるように勧めなさい。

2:3 同じように、年老いた女には、聖なる務めを果たす者にふさわしくふるまい、中傷せず、大酒のとりこにならず、善いことを教える者となるように勧めなさい。

2:4 そうすれば、彼女たちは若い女を諭して、夫を愛し、子供を愛し、

2:5 分別があり、貞潔で、家事にいそしみ、善良で、夫に従うようにさせることができます。これは、神の言葉が汚されないためです。

2:6-7 同じように、万事につけ若い男には、思慮深くふるまうように勧めなさい。あなた自身、良い行いの模範となりなさい。教えるときには、清廉で品位を保ち、

2:8 非難の余地のない健全な言葉を語りなさい。そうすれば、敵対者は、わたしたちについて何の悪口も言うことができず、恥じ入るでしょう。

2:9 奴隷には、あらゆる点で自分の主人に服従して、喜ばれるようにし、反抗したり、

まっている。

1:12 クレテ人のうちのある預言者が「クレテ人は、いつもうそつき、たちの悪いけもの、なまけ者の食いしんぼう」と言っているが、

1:13 この非難はあたっている。だから、彼らをきびしく責めて、その信仰を健全なものにし、

1:14 ユダヤ人の作り話や、真理からそれていった人々の定めなどに、気をとらることがないようにさせなさい。

1:15 きよい人には、すべてのものがきよい。しかし、汚れている不信仰な人には、きよいものは一つもなく、その知性も良心も汚れてしまっている。

1:16 彼らは神を知っていると、口では言うが、行いではそれを否定している。彼らは忌まわしい者、また不従順な者であって、いっさいの良いわざに関しては、失格者である。

2:1 しかし、あなたは、健全な教にかなうことを語りなさい。

2:2 老人たちには自らを制し、謹厳で、慎み深くし、また、信仰と愛と忍耐とにおいて健全であるように勧め、

2:3 年老いた女たちにも、同じように、たち居ふるまいをうやうやしくし、人をそしったり大酒の奴隷になったりせず、良いことを教える者となるように、勧めなさい。

2:4 そうすれば、彼女たちは、若い女たちに、夫を愛し、子供を愛し、

2:5 慎み深く、純潔で、家事に努め、善良で、自分の夫に従順であるように教えることになり、したがって、神の言がそしりを受けないようになるであろう。

2:6 若い男にも、同じく、万事につけ慎み深くあるように、勧めなさい。

2:7 あなた自身を良いわざの模範として示し、人を教える場合には、清廉と謹厳とをもってし、

2:8 非難のない健全な言葉を用いなさい。そうすれば、反対者も、わたしたちについてなんの悪口も言えなくなり、自ら恥じいるであろう。

2:9 奴隷には、万事につけその主人に服従して、喜ばれるようになり、反抗をせず、

2:10 盗んだりせず、常に忠実で善良であることを示すように勧めなさい。そうすれば、わたしたちの救い主である神の教えを、あらゆる点で輝かすことになります。
2:11 実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました。
2:12 その恵みは、わたしたちが不信心と現世的な欲望を捨てて、この世で、思慮深く、正しく、信心深く生活するように教え、
2:13 また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。
2:14 キリストがわたしたちのために御自身を献げられたのは、わたしたちをあらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心な民を御自分のものとして清めるためだったのです。
2:15 十分な権威をもってこれらのことを語り、勧め、戒めなさい。だれにも侮られてはなりません。

2:10 盗みをせず、どこまでも心をこめた真実を示すようにと、勧めなさい。そうすれば、彼らは万事につけ、わたしたちの救主なる神の教を飾ることになる。
2:11 すべての人を救う神の恵みが現れた。
2:12 そして、わたしたちを導き、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し、
2:13 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。
2:14 このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。
2:15 あなたは、権威をもってこれらのことを語り、勧め、また責めなさい。だれにも軽んじられてはならない。

木曜日

10月22日 新約聖書の中の偽預言者

問5 マタイ 24:23, 24 を読んでください。イエスはここで、何について警告しておられますか。なぜ私たちはこの警告を真剣に受け止めるべきなのでしょう。

イエスご自身が、これ以上ないほど明確に語られました——「偽メシアや偽預言者が現れて、大きなしるしや不思議な業を行い、できれば、選ばれた人たちをも惑わそうとするからである」〔口語訳「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう」〕(マタ24:24)。

もし「大きなしるしや不思議な業」〔口語訳「大いなるしるしと奇跡」〕が本当に伴うとすれば、イエスが警告しておられる惑わしは、極めて説得力のあるものに違いありません。超自然的な出来事は、どれほど説得力があるように見えても、それ自体が神の働きの証拠にはなりません。私たちには超自然的な敵がいます。パウロが警告したように、「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです」〔口語訳「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである」〕(エフェ[エペ]6:12)。そして、これらの悪の力は偽預言者を通して働きます。

実際、偽預言者は今に始まったものではありません。新約聖書は旧約聖書の時代の偽預言者について言及しています(ルカ 6:26)。新約聖書の中で偽預言者は、「羊の皮を身にまとった」……貪欲な狼」〔口語訳「羊の衣を着(た)……強欲なおおか

み」(マタ 7:15)にたとえられており、私たちは、「その実で彼らを見分ける」〔口語訳「その実によって彼らを見わける」〕(同 7:16)とされています。

彼らのおもな働きは惑わしです(マタ 7:17~20)。イエスご自身が、「偽預言者も大勢現れ、多くの人を惑わす」〔口語訳「多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう」〕(同 24:11)、「できれば、選ばれた人たちをも惑わそうとする」〔口語訳「できれば、選民をも惑わそうとする」〕(同 24:24、マコ 13:22、Iヨハ 4:1も参照)と明言なさいました。

問6 エフェソ (エペソ) 6:10~18によれば、私たちはいかにしてあらゆる種類の惑わしから身を守ることができるのでしょうか。

信仰によって生き、「正義の胸当て」を着け、「真理の帯」を締め、祈りを通して聖霊に身を委ね、神の言葉に根ざすこと——これらこそが、私たちを霊的にも神学的にも迷わせるあらゆるものから身を守る方法なのです。

世界を席卷するあらゆる惑わしに対して、あなたはいかにによりよく自分自身を武装することができますか。

30

マタ 24:23、24 (新共同訳)

24:23 そのとき、『見よ、ここにメシアがいる』『いや、ここだ』と言う者がいても、信じてはならない。

24:24 偽メシアや偽預言者が現れて、大きなしるしや不思議な業を行い、できれば、選ばれた人たちをも惑わそうとするからである。

エフェ 6:12 (新共同訳)

6:12 わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。

ルカ 6:26 (新共同訳)

6:26 すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

マタ 7:15~20 (新共同訳)

7:15 「偽預言者を警戒しなさい。彼らは羊の皮を身にまとい、あなたがたのところに来るが、その内側は貪欲な狼である。
7:16 あなたがたは、その実で彼らを見分ける。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるだろうか。

マタ 24:23、24 (口語訳)

24:23 そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、また、『あそこにいる』と言っても、それを信じるな。

24:24 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。

エペ 6:12 (口語訳)

6:12 わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

ルカ 6:26 (口語訳)

6:26 人が皆あなたがたをほめるときは、あなたがたはわざわいだ。彼らの祖先も、にせ預言者たちに対して同じことをしたのである。

マタ 7:15~20 (口語訳)

7:15 にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。
7:16 あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。

7:17 すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。

7:18 良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶこともできない。

7:19 良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。

7:20 このように、あなたがたはその実で彼らを見分ける。」

マタ 24:11 (新共同訳)

24:11 偽預言者も大勢現れ、多くの人を惑わす。

マコ 13:22 (新共同訳)

13:22 偽メシアや偽預言者が現れて、しるしや不思議な業を行い、できれば、選ばれた人たちを惑わそうとするからである。

Iヨハ 4:1 (新共同訳)

4:1 愛する者たち、どの霊も信じるのではなく、神から出た霊かどうかを確かめなさい。偽預言者が大勢世に出て来ているからです。

エフェ 6:10～18 (新共同訳)

6:10 最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。

6:11 悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。

6:12 わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。

6:13 だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。

6:14 立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、

6:15 平和の福音を告げる準備を履物としなさい。

6:16 なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。

6:17 また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。

6:18 どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。

7:17 そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。

7:18 良い木が悪い実をならせることはないし、悪い木が良い実をならせることはできない。

7:19 良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる。

7:20 このように、あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。

マタ 24:11 (口語訳)

24:11 また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。

マコ 13:22 (口語訳)

13:22 にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、しるしと奇跡を行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。

Iヨハ 4:1 (口語訳)

4:1 愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである。

エペ 6:10～18 (口語訳)

6:10 最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。

6:11 悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。

6:12 わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

6:13 それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。

6:14 すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ、

6:15 平和の福音の備えを足にはき、

6:16 その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。

6:17 また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

6:18 絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。

これまで学んできたように、神は特定の時に預言者を召し、彼らに重要な任務をお与えになりました。彼らのおもな役割は、神の知識と神との忠実な関係へ人々を導くことであり、それがエレン・ホワイトの働きを導く基本的な指針でした。彼女の働きには、二つの主要な役割がありました——人々をイエスへ導くことと、神の御言葉である聖書へ導くことです。

エレン・ホワイトは、生涯にわたってイエスに対する情熱を持ち、神の愛をほかの人々と分かち合いたいという願いを抱いていました。彼女の有名な5巻シリーズ（大争闘シリーズ）は、「神は愛なり」という言葉で始まり、同じ言葉で終わっています。おそらく彼女の最も有名な著書『キリストへの道』の中で、彼女はこう書いています。「恵みに成長することも、私たちの喜びも、人のために役立つこともみな、キリストと一つになるか否かにかかっています。恵みに成長するのは、毎日、毎時、彼と交わり、彼のうちにとどまることによります。キリストは私たちの信仰の創始者であると同時に、信仰の完成者です」（『キリストへの道』改訂第三版文庫版 97 ページ）。

1890年代、彼女は『各時代の希望』を執筆中、日記にこう書いています。「キリストの生涯について書き記すとき、私は深く心を動かされる。呼吸するのを忘れてしまうほどだ。キリストがこの世で苦しまれたことを考えると、こみ上げてくる激しい感情に耐えることができない」（『原稿』70、1897年、英文）。エレン・ホワイトは、イエスについて語ることが大好きでした。

【参考】—— Manuscript 70, 1897.

“In writing upon the life of Christ I am deeply wrought upon. I forget to breathe as I should. I cannot endure the intensity of feeling that comes over me as I think of what Christ has suffered in our world.”

エレン・ホワイトの働きにおける第二の焦点は、聖書でした。彼女は自分の著作物を、人々を「大きな光」である聖書へと導く「小さな光」と見なしていました（『セレクトッド・メッセージ』第3巻 29 ページ、英文）。彼女はいつも、愛に満ちた神のご品性と救済計画が明らかにされている聖書に立ち帰るよう、人々に勧めました。働きの初期に彼女が述べたとおりです——「親愛なる読者よ、私はみなさんに、信仰と実践の規範として神の御言葉をお勧めする」（『同』30 ページ、英文）。

【参考】—— Selected Messages, book 3, p. 30.

“I recommend to you, dear reader, the Word of God as the rule of your faith and practice.”

後年、彼女はこう書いています——「主は、あなたがたが聖書を学ぶことを望んでおられる。主は御言葉に取って代わるような、いかなる新しい光も与えてはおられない。……〔御言葉〕は、それが食され、消化されるなら、魂の命の血のようになる。その時、善い行いは、闇の中に輝く光としてあらわれるだろう」（『手紙130』1901年、英文）。

【参考】—— Letter 130, 1901.

“The Lord desires you to study your Bibles. He has not given any additional light to take the place of His Word. . . . If eaten and digested, [His Word] is as the life-blood of the soul. Then good works will be seen as light shining in darkness.”

エレン・ホワイトはまた、こう信じていました——キリストの預言者としての使命を担っていると称する者はみな、「キリストがお教えになったことを教えるのであった。キリストがご自身の口を通してばかりでなく、旧約のすべての預言者たちと教師たちを通して語られたことがここに含まれている。人間の教えは除外されている」(『希望への光』 1113 ページ、『各時代の希望』 第86章)。

31